

□医療・福祉実践科目

科目名	ケースメソッド基礎	1単位
担当者	篠田 道子（非常勤教員）	
開講形態	対面形式	
テーマ	ディスカッションから学ぶ価値を理解し、プレゼンテーションスキルなど専門職業人に求められる知識とスキルを身につける	
科目のねらい	<p><キーワード> 学びの共同体、勇気・礼節・寛容・プレゼンテーションスキル、メンバーシップ</p> <p><内容の要約> ケースメソッド授業の特徴・原則・重視するコンセプトを理解したうえで、ディスカッションから学ぶ価値を理解する。これらケースメソッドでの教えを「実際にケースメソッド授業を動かしながら」学ぶ。</p> <p><学習目標> ・ケースメソッドが重視するコンセプトを理解できる ・ディスカッションから学ぶ価値を理解できる ・プレゼンテーションスキルやメンバーシップなど専門職業人に求められる知識とスキルを身につけることができる</p>	
授業の進め方	第1回：ケースメソッドとは（定義・授業の特徴と原則・重視するコンセプト） ケース1 第2回：ケース1 第3回：ケース2 第4回：ケース2 第5回：ケース3 第6回：ケース3 第7回：ケース4 第8回：ケース4・まとめ ◆授業は2コマ続きで行う。	
事前学習の内容・学習上の注意	・事前に配布したケース教材を読み、課題シートに自分の考えをまとめ、グループディスカッションやクラスディスカッションで発言できるよう準備しておくこと。 ・授業の運営方法：①個人学習、②グループディスカッション、③クラスディスカッション、④振り返りの4段階で進める。	
本科目の関連科目	ケースメソッド演習	
テキスト	事前にケース教材と課題シートを配布する	
参考文献	高木晴夫・竹内伸一（2011）『ケースメソッド教授法入門 - 理論・技法・演習・ココロ-』慶応義塾大学出版会	
成績評価方法と基準	・1回ごとの課題シートの提出状況（50点） ・ディスカッションへの参加状況（50点） 上記の視点を総合的に判断し、全体で60点以上を合格とする	

□医療・福祉実践科目

科目名	ケースメソッド演習	2単位
担当者	中島民恵子、篠田 道子（非常勤教員）、木村 圭佑（非常勤教員）	
テーマ	ケースメソッド授業の運営を通して実践力・マネジメント力を向上させ、「学びの共同体」を形成する	
開講形態	ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p><キーワード> 学びの共同体、ファシリテーションスキル、実践力、マネジメント力 ディスカッションリード計画、ボードライティング計画</p> <p><内容の要約> ケースメソッド授業を通して実践力やマネジメント力の向上を目指すとともに、「学びの共同体」を形成する。授業を運営しながら、ファシリテーションやライティングスキルを向上させ、医療・福祉現場の課題を多面的に分析し、課題解決のための豊かな方策を検討する。</p> <p><学習目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的な問題分析力や解決策の提案、批判的考察力などマネジメント実践に必要な知識とスキルを身につけることができる ・ディスカッションリード計画またはボードライティング計画を作成し、ファシリテーションスキル等を活用することで、ケースメソッド授業を運営できる ・講師・参加者ととも「学びの共同体」の形成に寄与できる 	
授業の進め方	<p>第1・2回：オリエンテーション（授業の目的・進め方・重視するコンセプト） ケース1</p> <p>第3・4回：ケース2</p> <p>第5・6回：ケース3</p> <p>第7・8回：ケース4</p> <p>第9・10回：ケース5</p> <p>第11・12回：ケース6</p> <p>第13・14回：ケース7</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>◆授業は2コマ続きで行う。</p> <p>◆ディスカッションの質向上のために、実務家教員がオンラインで参加する。実務家教員とは、広義の福祉現場の高度専門職業人のモデルとなるような先駆的で優れた実践をしている人の総称である。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の運営方法：①個人学習、②グループディスカッション、③クラスディスカッション、④振り返りの4段階とする。 ・課題シートは指定した「nfu.jpのボックス」に提出する。 ・開講形態：ハイブリッド授業を基本とする。具体的な進め方は授業の初日に説明する。ただし、ディスカッションリードまたはボードライティング（板書）を担当する院生は、名古屋キャンパスに参集すること。 ・ディスカッションリードとボードライティングを担当する院生は、「ディスカッションリード計画」または「ボードライティング（板書）計画」を作成するので、担当教員と事前に相談すること。 	
本科目の関連科目	ケースメソッド基礎	
テキスト	事前にケース教材と課題シートを配布する	
参考文献	高木晴夫・竹内伸一（2011）『ケースメソッド教授法入門 - 理論・技法・演習・ココロ - 』慶応義塾大学出版会	
成績評価方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点（70点）：討論への参加状況（場作りの貢献度や積極的な発言など）、課題シートの提出状況を勘案して総合的に評価する。 2. その他（30点）：2つの方法から選択する。①ディスカッションリードやボードライティング（板書）のいずれかを経験する。②ケース教材の執筆。ケースとして提出されたものは「ケース教材の試運転」を経て、次年度以降の授業で活用することも想定している。詳細は授業初日に説明する。 	

□医療・福祉実践科目

科目名	多職種連携概論	2単位
担当者	篠田 道子（非常勤教員）	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	多職種連携の視点から医療・福祉サービスのマネジメントを考える	
科目のねらい	<p><キーワード> 多職種連携、マネジメント、組織変革、リスクマネジメント、意思決定支援</p> <p><内容の要約> 少子高齢化や情報化の進行とともに、医療・福祉サービス、組織やチーム、リーダーシップのあり方が変化している。本講では多職種連携の視点から医療・福祉サービスのマネジメント（管理・運営・経営）を考える。ケースメソッド、事例検討など複数の方法を組み合わせながら多面的に検討する。授業では様々な多職種連携の場面にスポットを当て、自分がその場面の当事者であればどのように状況を理解し、そしてどのように意思決定し、組織やサービスを動かしていくのかを考える。</p> <p><学習目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の必要性とその実際を理解できる ・医療・福祉サービスのマネジメントを理解できる ・多職種連携の課題をマイクロ・メゾ・マクロの視点から説明できる 	
授業の進め方	<p>第1・2回 オリエンテーション、自己紹介、多職種連携を高めるカンファレンス（ブレインストーミング、ケース教材によるディスカッション）</p> <p>第3・4回 医療・福祉施設におけるリスクマネジメント</p> <p>第5・6回 医療・福祉施設における組織変革</p> <p>第7・8回 業務改善と働き方改革（院生による事例提供と討論）</p> <p>第9・10回 小規模事業所の事業承継</p> <p>第11・12回 多職種で支える意思決定支援 終末期ケアに焦点を当てて -</p> <p>第13・14回 静かなリーダーシップ（グループワーク＋発表）</p> <p>第15回 全体のまとめ・リフレクション</p> <p>本講義は、隔週2コマ連続とする。都合により内容と順番を一部変更する場合がある。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>・事前に配布したケース教材を読み、課題シートに自分の考えをまとめ、グループワークで発言できるように準備しておくこと。</p> <p>・授業では双方向性を大切にしているので、院生の積極的な問題提起を歓迎したい。</p>	
本科目の関連科目	ケースメソッド基礎、ケースメソッド演習	
テキスト	テキストは使用しない。レジュメ、ケース教材、実践報告、雑誌論文、新聞記事など多様な教材を使用する。	
参考文献	<p>・篠田道子（2011）『多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル』医学書院</p> <p>・篠田道子（2023）『チームを成長させる会議・カンファレンス 35 スキル』日本看護協会出版会</p> <p>・J.バダラッコ、高木晴夫監修（2010）『静かなリーダーシップ』翔泳社</p>	
成績評価方法と基準	<p>・最終レポート（50点）、②平常点（50点）：コメントカード、事前課題、グループワークへの参加状況等で評価し、総合評価60点以上を合格とする。</p> <p>・最終レポート：テーマは授業で扱う内容に関連するものを各自テーマ設定する。A4版で2000字程度にまとめる。締め切りは2026年7月31日（金）。nfujpに提出する（授業初日に説明する）。</p>	

□医療・福祉実践科目

科目名	プログラム評価論	2単位
担当者	横山 由香里	
テーマ	実践や介入プログラムの課題や効果等を科学的に評価する方法を学ぶ	
開講形態	ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p><キーワード> 1. エビデンス 2. プロセス評価 3. アウトカム評価 4. ロジックモデル</p> <p><内容の要約> 近年、社会福祉や保健医療の実践が効果的に行われているかを検証することが求められています。本講義では、実践の経過や実践後の成果・課題等の評価方法を学び、研究のリテラシーを高めます。</p> <p><学習目標> 社会福祉や保健医療の領域で行われている取り組み（介入や実践）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題や効果などを評価した文献を読むことができる ・情報収集や分析時の注意点、個人情報保護等を意識しながら研究計画を立案できる ・多角的に評価することの重要性を理解できる 	
授業の進め方	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 エビデンスとは</p> <p>第3回 代表的な社会福祉調査法</p> <p>第4回 介入や実践の「効果」とは</p> <p>第5回 プログラムを開始する前のアセスメント・ロジックモデル</p> <p>第6回 「効果」を評価する方法①</p> <p>第7回 実際の文献に学ぶ</p> <p>第8回 バイアスとは</p> <p>第9回 「効果」を評価する方法②</p> <p>第10回 プロセス評価とは</p> <p>第11回 アウトカム評価とは①</p> <p>第12回 アウトカム評価とは②</p> <p>第13回 実際の文献に学ぶ</p> <p>第14回 様々なプログラム評価</p> <p>第15回 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げる文献は受講者の専門分野に合わせて決めます。 ・進度の都合で授業の順番を変更する可能性があります。 ・オンライン参加者の人数次第で、グループワークがしづらい場面が少しあるかもしれません。ご了承ください。
事前学習の内容、学習上の注意	論文を事前配布した場合には、各自で目を通しておくことを推奨します。	
本科目の関連科目	研究方法概論	
テキスト	特になし	
参考文献	<p>「プログラム評価 対人・コミュニティ援助の質を高めるために」安田節之著. 新曜社(2011) / 「プログラム評価の理論と方法 -システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド」P. H. ロッシ・M. W. リプセイ・H. E. フリーマン 著, 大島巖・平岡公一・森俊夫・元永拓郎 監訳. 日本評論社(2005)</p>	
成績評価方法と基準	レポートの提出（50%）、ディスカッションへの参加（50%）により、総合的に評価する。全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉実践科目

科目名	スーパービジョン論	2単位
担当者	大谷京子・山口みほ	
開講形態	ハイブリッド形式（第8回・第9回は対面開講）	
テーマ	ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解と実践への応用	
科目のねらい	<p><キーワード> ソーシャルワーク・スーパービジョン、個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性、スーパービジョンの倫理</p> <p><内容の要約> ①ソーシャルワーク・スーパービジョンについての基礎的理解を図る。スーパービジョンの教育的機能・支持的機能・管理的機能の具体的な展開について、実践的に学ぶ。 ②所属組織におけるソーシャルワーク専門職としての在り方を考える。 ③後進養成教育の過程におけるスーパービジョンの援助関係の特質や具体的な援助技術について明確化を図る。</p> <p><学習目標> ・ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解を図り、自らの教育体験や現場体験を内省的に考察し、言語化することができる。 ・専門職としての後進育成に関する、新人研修・実習教育プログラム等の具体的な計画やマネジメントを遂行できる。</p>	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション（担当：大谷） 第2回 スーパービジョンに関する理論①（山口） 第3回 スーパービジョンに関する理論②（山口） 第4回 スーパービジョンのセッション事例（大谷） 第5回 スーパービジョンで活用されるスキル（大谷） 第6回 新米スーパーバイザーが直面する困難とその対処（大谷） 第7回 スーパーバイザーとしてセッションを開始し、続けるための工夫（大谷） 第8回 個別スーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）（大谷） 第9回 個別スーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）（大谷） 第10回 グループスーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）（山口） 第11回 グループスーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）（山口） 第12回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会（山口） 第13回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会（山口） 第14回 個別スーパービジョンの演習（山口） 第15回 全体の総括・まとめ	
事前学習の内容・学習上の注意	テキストにはあらかじめ目を通して、ソーシャルワークスーパービジョンについての基礎的理解をおさえておくこと。 積極的な自己学習と講義時の討議への積極的な参加を期待する。 実践レポートについて：本科目で実施した講義と演習を基に、受講者それぞれの現場でスーパービジョンを試行していただき、その内容について報告してください。（40文字×40行で1600字以内）	
本科目の関連科目	ソーシャルワーク論	
テキスト	大谷京子・山口みほ編著（2019）『スーパービジョンのはじめかた：これからバイザーになる人に必要なスキル』ミネルヴァ書房	
参考文献	アルフレッド・カデュエシ（2016）『スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第5版』中央法規出版。 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2023）『実践ソーシャルワーク・スーパービジョン』中央法規出版。	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（40%）、実践報告レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

□医療・福祉実践科目

科目名	ケアマネジメント論	2単位
担当者	上原 久（非常勤教員）	
開講形態	対面形式	
テーマ	ケアマネジメントの理論と実際	
科目のねらい	<p><キーワード> 1. 多職種連携 2. ケアマネジメント 3. チームワーク</p> <p><内容の要約> ケアマネジメントは、クライアントの複合的なニーズに対応する専門職を組織し、連携して課題解決に向かう営みです。連携する専門職がクライアントのニーズを正しく把握し、クライアントの理解を深め、QOL 向上に向けた課題解決を丁寧に行っていく。その際、チームメンバーが「顔の見える関係・価値観を共有できる関係」を構築できると、ケアマネジメントの効果はより一層大きなものになります。しかしこれは、簡単なようで難しい。この講義では、ワークを中心に置きながら連携の生成プロセス、連携の阻害要因や促進要因、効果的なディスカッションの方法等について、ケアマネジメントに必要な中核知識・周辺知識を実践的・体験的に学びます。ワークは、私たちの日常生活に関するものを取り上げながら、「チームが連携して課題解決に向かう営み」について理解を深めていきます。</p> <p><学習目標></p> <p>①実践技術としてのケアマネジメントについて理解できる。</p> <p>②連携の概念について理解できる。</p> <p>③多職種連携に不可欠な事例理解の深め方を理解できる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 導入講義・ケアマネジメントの概要と意義、歴史と類型</p> <p>第 2 回 インテーク、アセスメント、プランニング、モニタリング、インターベンション</p> <p>第 3 回 エバリュエーション、ターミネーション</p> <p>第 4 回 連携、チームビルディング、チームワーク、</p> <p>第 5 回 連携の関連技術、連携の阻害要因・促進要因</p> <p>第 6 回 スーパービジョン、対象者理解</p> <p>第 7 回 ケア会議の必要性、ケア会議を構成する要素</p> <p>第 8 回 ケーススタディー①</p> <p>第 9 回 ケーススタディー②</p> <p>第 10 回 ケアマネジメントの実際①</p> <p>第 11 回 高齢者領域における課題</p> <p>第 12 回 ケアマネジメントの実際②</p> <p>第 13 回 障害者領域における課題</p> <p>第 14 回 その他の領域(就労・生活困窮)における課題</p> <p>第 15 回 振り返りと総括</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>○指定したテキストを事前に読んでおくことが望ましい。</p> <p>○ソーシャルワーク論や保健・医療・福祉サービス論等の基礎的な科目に関する基本的な知識を前提として講義を進める。</p> <p>○ディスカッションには積極的に参加すること。</p>	
本科目の関連科目	<p>ソーシャルワーク論、医療・福祉マネジメント（保健・医療・福祉サービス論）、スーパービジョン論、地域福祉論</p>	
テキスト	<p>①上原久：「ケア会議の技術2」（中央法規出版）</p> <p>②上原久：「見立てを深めるための事例検討会」</p>	
参考文献	<p>①野中猛、上原久：「ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質」（中央法規出版）</p> <p>②野中猛ほか：「多職種連携の技術」中央法規出版</p>	
成績評価方法及び基準	<p>1 回ごとのコメントカードの提示（20%）、ディスカッションへの参加度（20%）、提出レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。</p>	

□医療・福祉実践科目

科目名	人材マネジメント論	2単位
担当者	裴 英洙（非常勤教員） 栗田かほる（非常勤教員）	
開講形態	対面形式	
テーマ	医療・介護組織における人や組織のマネジメントを学ぶ	
科目のねらい	<p><キーワード> マネジメント、コミュニケーション、リーダーシップ、モチベーション、組織行動、ロジカルシンキング<内容の要約> 人材マネジメントは、組織の目的達成に向け「ヒト」と「組織」を最大限効果的に機能させるための中核的活動で、組織が継続的に発展するために欠かせない最も重要な領域です。経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、「ヒト」は意志と感情を持つ存在であり、マネジメント次第で組織の価値を大きく高める一方で、誤れば価値を損ないかねません。</p> <p>本講座では、「ヒト」と「組織」をマネジメントしていく方法を、ケースディスカッションと講義を通じて学んでいきます。受講者自身が考え、互いの意見を発言しあうことで、受講者間で双方向に学びあうという特徴があります。現場で遭遇する複雑で多様な課題をテーマに、様々な視点から議論していきます。</p> <p><学習目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材マネジメントの基礎知識や考え方を学ぶことができる ・物事の全体像ととらえ論理的に考え人にわかりやすく伝える力を鍛えることができる ・討議を通じて他者・他職種の意見を受け止め多様な視点を獲得することができる 	
授業の進め方	第 1回 人材マネジメント概論 第 2回 人材マネジメント基礎（1） 第 3回 人材マネジメント基礎（2） 第 4回 人材マネジメント基礎（3） 第 5回 人材マネジメント基礎（4） 第 6回 コミュニケーション 第 7回 リーダーシップ（1） 第 8回 リーダーシップ（2） 第 9回 モチベーションマネジメント 第10回 医療現場における人材課題（1） 第11回 医療現場における人材課題（2） 第12回 人材マネジメントの複合的課題（1） 第13回 人材マネジメントの複合的課題（2） 第14回 人材マネジメントの複合的課題（3） 第15回 総括	
事前学習の内容・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目に注意点を含ま詳細なオリエンテーションを実施します ・予習が必要な場合は、事前に教材（ケース）を配布いたしますので、ケースを読んで設問を考えてきてください ・指定した参考文献を事前に読んでおくことが望まれます 	
本科目の関連科目	特になし	
テキスト	テーマと課題に応じて、担当教員が作成した資料等をもとにクラスを運営します	
参考文献	裴英洙「新・医療職が部下を持ったら読む本」（日経 BP 社） 裴英洙「医療職が部下に悩んだら読む本」（日経 BP 社）	
成績評価方法と基準	授業での発言点（60点）、レポート（40点）により評価し、総合評価60点以上を合格とします。（試験の予定はなし）	